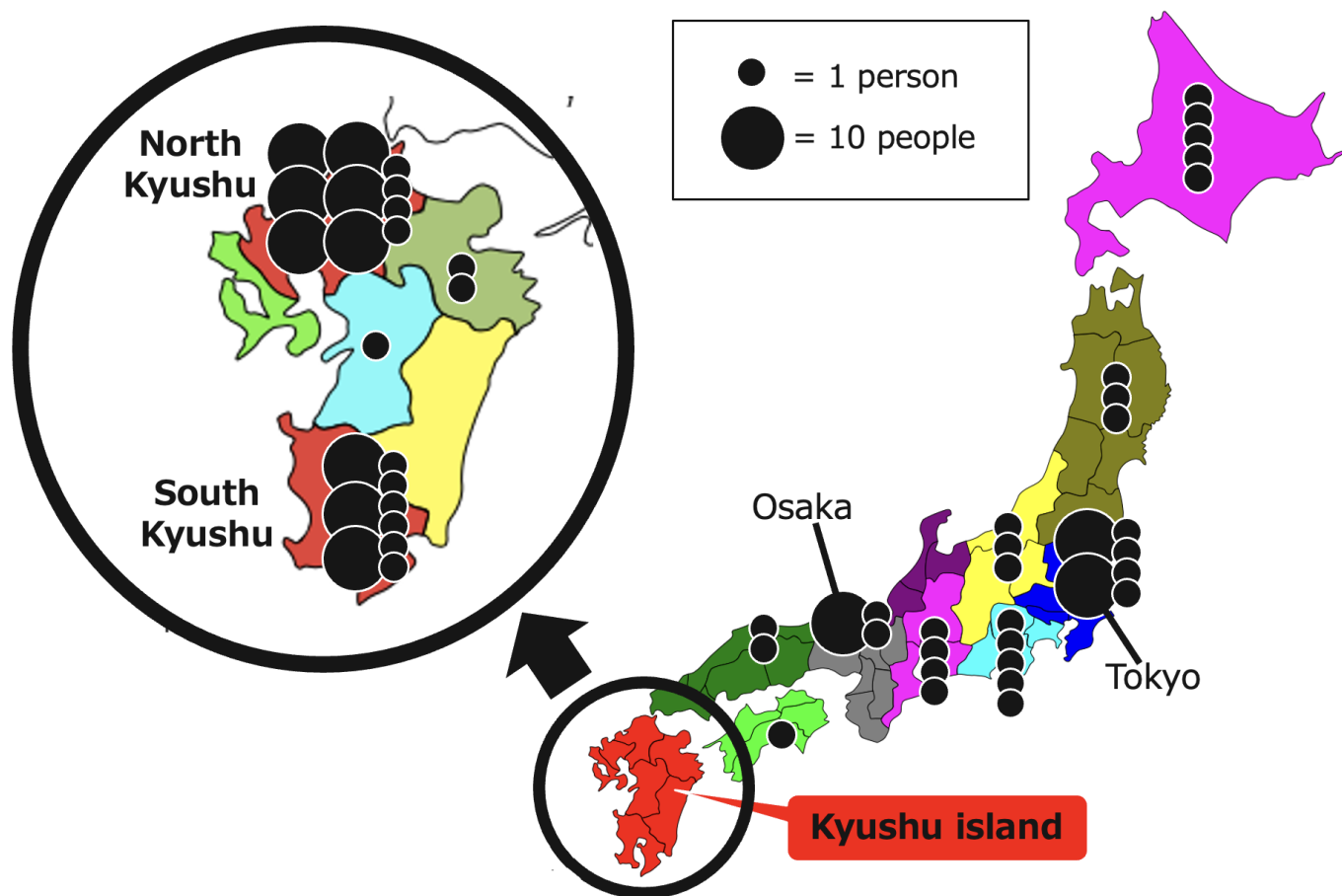


本邦におけるGSS-P102Lの臨床疫学的検討（続報）

研究分担者： 国際医療福祉大学 村井弘之



解 説

1. 四半世紀におよぶサーベイランスで165人のGSS-P102Lが集積した
2. このうちの77%は九州在住または九州出身であった
3. GSS-P102Lの94%は小脳失調を呈する
4. GSS-P102Lは急速進行型と緩徐進行型があるが、前者のマーカールとしてMRI高信号、髄液14-3-3陽性があげられる